



## 日本国債について

政策委員（白石区支部） 大 橋 勉

2013年12月末、日本政府発行の国債発行残高が750兆円に達した。天文学的数字である。さらに、2014年の安倍政権での新規発行の国債は43兆円に及ぶ。税収が40兆円程度なので、年収400万円の人が7500万円の借金を、さらに毎年400万円の借金をし続ける事にたとえられる。これでは、どう見ても税収で借金を返済できるわけもない。いわゆる日本政府破綻論者は、借金の増大により、毎年その返済に追われ、教育、福祉、下水道、道路などの資本整備といった政策に使える経費が圧迫され、さらには国債暴落あるいは債務不履行（デフォルト）、銀行閉鎖、円安、政府閉鎖、公務員給与凍結、公共事業凍結、診療報酬の大幅削減などの状況がこの数年の内に起きるだろうと予測している。

このような危機的状況を理由に、財務省は医療費などの社会保障費、出費を減らし、増税しなければならぬと主張している。ただ、今後も毎年40兆円以上の国債の発行が続くであろうから、消費税が5%上げられ、税収が10兆円程度増加したとしても、焼け石に水で国債発行残高は雪ダルマ式に増加していくのは目に見える。ただ1つこの膨大な国債発行残高を減らす方法がある。三橋<sup>1)</sup>、廣宮<sup>2)</sup>らが指摘しているが、日本銀行が国債を買い上げるという方法である。

ところで、日本政府が財政破綻すると言われ始めたのは1982年、鈴木善幸内閣が赤字国債の借り換えを始めた時に、マスコミが政府財政がサラ金地獄と指摘した。さらに1995年、時の大蔵大臣、武村正義は国会で「我が国の財政は事実上、破綻している」と財政破綻宣言を行った。しかし、19年経った今も日本政府の国債残高は増加しているものの、財政破綻は来してい

ないのが事実である。

最近ほぼ破綻状態になっているギリシャと日本の違いは、どこにあるのであろうか。両国とも膨大な量の国債を発行しているが、GDPの規模が違うので、その額で比べる事は出来ないが、日本の国債はGDP比210%を越え、ギリシャの場合は150%となっている。ギリシャは日本より少ない国債のGDP比で破綻してしまっている訳である。その理由として1つには、国債の利払いが日本は1.3%と少ないのに対して、ギリシャは18%と非常に高い事である。もう1つ決定的に違う事は、ギリシャは国債をユーロ建てで持っているのに対して日本は自国通貨である円で国債を持っている点である。日本は自国通貨の国債を持っていること、また多くの資産を持っているので、破綻には至らないのである。

自国通貨建ての借金で政府は破綻する事はないと言われている。なぜなら、中央銀行（日本銀行）が紙幣を刷る事が出来るからである。長い間日本の危機が言われているが、果たしてそうであろうか。日本全体の金融資産は1500兆円、政府自体も490兆円の資産がある。また、国外に資産は250兆円、これは現在原発が動かなくなり、液化天然ガスの輸入が増加しているため、やや減少傾向にあるが、まだ充分な200兆円以上の国外資産がある。また国全体では、5000兆円規模の資産があると言われている。国外資産でみる限り、日本は世界一の金持ちの国なのである。世界一の金持ち国がなぜ破綻しなければならぬのかと三橋<sup>1)</sup>らは述べている。

現在アベノミクスにより、日銀の黒田総裁が2014年には250兆円までの国債を市中銀行から買い入れると発表している。実に発行国債残高

の1/3に達する。

日銀は、政府出資55%の日本政府の子会社で、日銀の利益は、ほぼ100%政府に還元されるため、日銀が国債を買い取れば、自分の子会社の資産が増加し、しかも国債の利息が収入となる。全体として政府の借金が子会社の資産になり、借金帳消しのような状態になるわけである。今、アベノミクスにより歴史的な実験が行われ始めている。20年近くデフレが続いている日本では、まず、250兆円程度の国債買い上げでは悪性インフレになる事はないだろう。急激

な物価上昇、悪性インフレなどを起こす事もなく、国債の買い取りが成功することを祈りたい。ただ無駄な税の使い方は止めてほしいものである。

#### 参考文献

- 1) 三橋貴明：それでも日本経済が世界最強という真実、日本は「国債破綻」しない！
- 2) 廣宮孝信：国債を刷れ！「国の借金は税金で返せ」のウソ

(大橋眼科)